



# キラリまきらっこ



発行責任者  
校長:前三盛 敦

## 子どもの成長について

### 行動の変化から見る幼児期の成長



早いもので明日から3月、今年度の学校登校もあとわずかとなりました。1年をふり返ると、みんなよく成長したと思います。そこで、今日は、子どもの成長についてもっと小さかった頃のことから考えてみます。

赤ちゃんの頃、生まれて1か月頃、目に映るものをじっと見ていました。2か月頃は、よく笑うようになりました。そして、4か月頃から、首がすわるといって、自分で頭を支えています。5か月頃は、手の届くものは、何でもつかむようになります。その後も、寝返り、はいはい、つかまり立ち、伝い歩きと、どんどんできるようになりました。もちろん、それぞれの時期には差がありますが、みんなこうして大きくなってきました。

1歳以降も、ぐんぐん成長して、いろいろ指をさしたり、人見知りをしたり、体を動かすことや真似すること、何でも自分で出来るよと、イヤイヤ期に入ったりしました。遊び方も、大きくなるとともに変わってきました。小さな頃は、自分一人やお友達と「ごっこ遊び」をよくしていました。小学校に入る頃には、たくさんのお友達と遊ぶようになり、3・4年生では、しっかりルールを守りながら遊び方も複雑になりました。一人一人違うと思いますが、子どもはこうして、少しずつ成長してきています。

少し見方を変えると、1・2年生の頃は、「自分のことを知ること」が、とても大切な時期と言えます。自分の得意なことや苦手なこと、好きなことや嫌いなことがはっきりしてきます。まだまだ自分のことを中心に考えている時期ではありますが、学校生活の中で、自分のことをよく知って、お友達のことでも少しずつ考えられるようになってきます。

3・4年生の頃は、より相手の気持ちも考えるようになります。トラブルやケンカがあっても相手の立場も考えて、自分の行動を見つめ直すことができるようになってきます。

5・6年生は、自分のことや相手のことはもちろん、もっと先の社会に目を向けるようになります。自分一人ではなく、他の人と協力して何かを成し遂げていくことを学んでいきます。運動会でのエイサー、組み体操、学習発表会での合唱・合奏も見事でした。ほんとうに委員会活動や各種行事運営も頑張ってくれました。

このように子ども達は、オギャアと生まれてから段階を追って、時には行ったり来たりしながらも確実に成長していくのです。保護者の皆様、子育てはほんとに大変ですが、あまり人と比べたり、あせったりせず、ゆっくり見守ることも大切と言われています。私たち教師も子どもの成長を見守りながらしっかり支援していきたいと思っています。今後ともよろしくお祈りします